

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

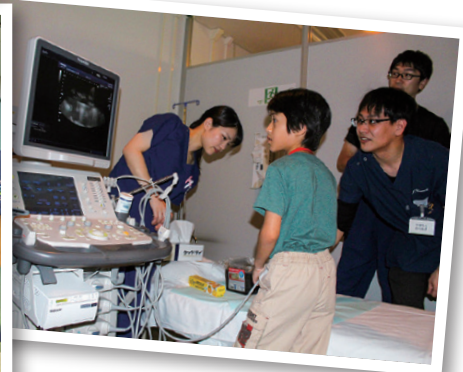
## 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2018年  
Vol.31

# ほっとタイムズ



キッズくらぶインホスピタル'18

## 病院長メッセージ 「当院での医師育成について」

## 教えてドクターQ&A 带状疱疹について

特集『医療をささえるスタッフ 薬剤局』…2～3

ドクター紹介……………5

麻酔科 部長 萩谷 圭一

麻酔科 医員 梅崎 健司

各科各部紹介……………5

第17回 医療相談支援室・がん相談支援センター

トピックス……………6

PCU セタまつりが開かれました

第97回ふれあいコンサート

サマーコンサートが行われました！

トピックス……………7

キッズくらぶインホスピタル'18を開催しました  
防災訓練

連携医療機関のご紹介……………8～9

菊地歯科医院

医療法人 誠順会クリニック 健康の杜

にしほり整形外科

地域連携だより 各診療科のご紹介……………10

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

医療を  
ささえる  
スタッフ

# 薬 剤 局



薬剤局長  
くろさわ あつ ひこ  
黒澤 豊彦



## 当院の薬剤局について

私たちは薬の専門家として、調剤業務や服薬指導はもとより、チーム医療に参画し、医師や他のコメディカルとも協働して、より有効で安心・安全な薬物療法の提供を目指しています。

現在、薬剤師30名、調剤補助者4名で業務に当たっています。特に当院はがん診療拠点病院としてがんセンターを併設しており、化学療法に関しては、レジメン審査(※)、処方監査、抗がん剤の無菌調製、副作用発現の確認、支持療法等の提案など、がん専門薬剤師を中心に力を入れて診療に参画しています。また、患者さんに切れ目のない薬物療法を提供するため地元薬剤師会と顔の見える関係を構築し、密接な連携を図っています。

従前から、薬学生の病院実務実習の受入を行ってきましたが、本年4月には日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師の研修施設認定を受け、専門性の高い薬剤師の育成にも力を入れています。

薬剤師は患者さんがお薬を上手に使うことで病気を克服するためのパートナーですので、お薬に関する質問等がありましたら、遠慮無くご相談ください。

(※) 抗がん剤を実際投与する場合の計画書

薬剤師さんに  
聞きました!



副薬剤科長  
(がん専門薬剤師)  
おおがみ まさ ひろ  
大神 正宏

## おくすりの ギ・モ・ン

### Q1：お薬はいつ飲んでもいいですか？

**A1：**お薬を飲むタイミングは食前、食後、食間など薬によって決められています。決められたタイミングと違うタイミングで飲むと効き目が変わったり、副作用が強くなり出ることがありますので、決められたとおりに飲むようにしましょう。

### Q2：お薬は水以外で飲んでもいいですか？

**A2：**お薬はコップ一杯程度の水または白湯で飲むことで、効き目が出るように作られています。水以外でのジュース、牛乳、コーヒー、炭酸飲料などで飲むと薬の効き目が変わってしまうことがあります。また、絶対アルコールとは一緒に飲まないでください。

### Q3：お薬はいつまで持ちますか？

**A3：**お薬には温度・湿度・光などの影響を受けて、効き目が弱くなるものや、有害な物質が作られるものがあります。また、お薬はそのときの症状に合わせて処方されるものですので、古くなったお薬は使わないようにしましょう。



## 病院薬剤師の主な仕事

病院の薬物療法を支えるために、薬剤師はさまざまな業務を行っています。病院薬剤師の数ある業務の中から主な4つの仕事をご紹介します。



調剤業務

内服・外用薬は処方内容、相互作用等問題がないか確認したうえで調剤しています。注射薬は、配合変化、点滴速度等を確認し、患者ごと1日分ずつセットしています。疑問点は医師に照会し間違いのないよう努めています。



無菌製剤処理

抗がん剤は、曝露を防ぐために薬剤師が防護衣を着用し、安全キャビネットを用いて無菌的に調製しています。高カロリー輸液については、クリーンベンチを用いて無菌的に調製しています。



病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

入院患者さんを対象として、持参されたお薬の確認や処方提案、処方されたお薬についての説明、副作用マネジメント等を行うことで、病棟看護師とも協力し適切な薬物療法が受けられるよう努めています。



薬剤科外来

主に抗がん剤や麻薬について患者さんが安心・安全に使用できるように、用法用量・副作用等について説明を行っています。また、入院予定の患者さんの服薬状況を確認し、手術前に中止する必要があるお薬のチェックなども行います。

## お薬手帳を持ちましょう！

～安全に治療を受けていただくために、受診の際は忘れずにお持ちください～



薬剤師 ことう 後藤ひかる

おくすり手帳は患者さんが使っている薬の名前や量、期間、使用法などの薬の情報を記録しておく手帳です。医師や看護師、薬剤師などがこの手帳の記録をもとに薬の飲み合わせや重複をチェックし、副作用のリスクを減らすことができます。手術や出血をともなう検査を受ける場合や造影剤を使用する検査の前後に中止しなければならない薬のチェックにも使えます。副作用歴やアレルギー、過去にかかった病気などの情報も伝えることができ、安全に治療を受けていただくために大変役に立ちます。おくすり手帳は常に携帯し、受診の際は忘れずにお持ちください。



# 帯状疱疹について

教えてドクター

Q&amp;A

## Q：帯状疱疹ってどんな病気？

**A：** 帯状疱疹は身体の中に潜んでいたヘルペスウイルスの一種、水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こります。水ぼうそうにかかったことがある人なら、誰でも帯状疱疹になる可能性があります。

＊水ぼうそうと帯状疱疹の関係

- はじめて水痘・帯状疱疹ウイルスに感染した時は、水ぼうそうとして発症します（初感染）。
- 水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内の神経節に潜んでいます（潜伏感染）。
- 加齢、ストレス、過労などが引き金となってウイルスに対する免疫力が低下すると、潜んでいたウイルスが再び活動を始め、神経を伝わって皮膚に到達し、帯状疱疹として発症します（再帰感染）。

## Q：帯状疱疹の症状は？

**A：** 身体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点と小さな水ぶくれが帯状に現れます。水ぶくれの大きさは粟粒大～小豆大で、ウイルスが原因となる水ぶくれの特徴として中央部にくぼみが見られます。皮膚と神経の両方でウイルスが増殖して炎症が起こっているため、皮膚症状だけでなく強い痛みが生じます。

## Q：合併症は？

**A：** 一般的な合併症として、発熱や頭痛がみられることがあります。顔面の帯状疱疹では、角膜炎や結膜炎などを起こすことがあります。耳の周辺に現れた場合は、耳鳴りや難聴を伴い、顔面神経麻痺を生じることがあります（ラムゼイ・ハント症候群）。

## Q：気を付けるべき後遺症は？

**A：** 通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、その後もピリピリするような痛みが持続することがあります。これを帯状疱疹後神経痛といいます。これは急性期の炎症によって神経に強い損傷が生じたことによって起こります。次のような場合、帯状疱疹後神経痛が起こりやすいので注意が必要です。

①高齢者 ②皮膚症状、痛みともに急性期の症状が激しいとき ③体力が落ちているとき など

## Q：帯状疱疹の治療は？

**A：** 治療の基本は抗ヘルペスウイルス薬です。一般に使われているのは内服薬ですが、重症の場合には入院して点滴をすることもあります。抗ヘルペス薬はウイルスの増殖を抑えることにより、急性期の皮膚症状・痛みなどを和らげ、治るまでの期間を短縮します。さらに合併症や後遺症を抑えることも期待されます。発病早期に服用を開始するほど治療効果が期待できます。

## Q：帯状疱疹は他の人へうつりますか？

**A：** 触って他の人にうつることはありません。ただし、水ぼうそうにかかったことがない乳幼児には、帯状疱疹としてではなく、水ぼうそうとしてうつることがあります。



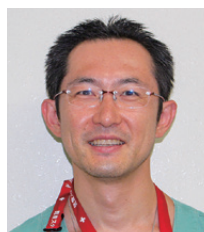
狩野先生から  
ひとこと

皮膚科 部長  
かのう としゆき  
狩野 俊幸 先生

帯状疱疹は早期に適切な治療を行うことで、症状を軽くし、合併症や帯状疱疹後神経痛のリスクを減らすことができます。帯状疱疹かなと思ったら、早めに医師にご相談ください。



# ドクター紹介

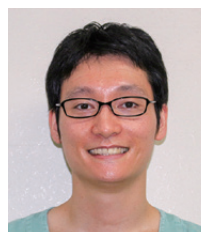


麻酔科  
部長  
はぎ や けい い ち  
**萩谷 圭一**

麻酔科専門医を取得後、9年ほど救急・集中治療に従事していました。2016年から当院で麻酔、集中治療領域の診療にあたっております。日ごとにパワーを増していく5歳の娘と沢山遊ぶため、妻より長生きするという約束を守るため、最近は意識して体を動かしています。

重症患者さんの中には、治療の効果が出ず命を落とす方もいます。追い込まれてしまってから頑張っても打ち勝つのは難しく、予防・早期発見を心がけることが大事だと感じます。

また、慢性疾患を放置してしまうと体が本来持っている治癒力が落ちてしまい、いざという時に対応し切れない、ということにもなりかねません。転ばぬ先の杖、という諺もありますし、元気で居続けられるようメンテナンスをお願いいたします。



麻酔科  
医員  
うめ ざ き けん じ  
**梅崎 健司**

千葉県出身、筑波大学卒業、現在医師7年目です。今年の4月から当院で働いています。病院周辺にはおいしい定食屋が多く仕事終わりに食べに行くのが楽しみの1つです。

当院で行われる手術は多種多様であり麻酔科医にはそれら全ての手術で患者さんの全身状態を管理する技術が求められます。緊急手術や重症患者さんの手術も多く日々奮闘しています。一日中手術室にいたとしても疲れます。でも患者さんが目を覚まし痛がることなく手術室を去って行くのを見ると安心するとともに、とても嬉しい気持ちになります。今後とも患者さんの安全と安心のために努力していきたいと思います。

## 各科各部紹介 第17回 医療相談支援室・がん相談支援センター

医療相談支援室では、急性期を脱した方の転院・施設入所の調整や在宅への退院調整、医療相談全般（経済面の不安・退院後の生活・各種施設、医療機関の利用方法・医療制度・福祉制度などについて）の情報提供を行い、より良い選択ができるように支援しています。又、難病医療拠点病院として、レスパイト入院の調整と難病患者の在宅支援を行い地域との連携を推進しています。場所は研修棟の1階にあります。

がん相談支援においては総合案内の奥で相談を担当し、がん相談やピアサポート、がん患者サロンの支援を実施し、患者・家族の気持ちの表出、共有、勉強会の場を提供し、自立に向けた就労支援を行っています。皆様、気軽にご相談ください。





## PCU セタまつりが開かれました

7月3日にPCUでセタ祭りが開かれました。普段はユニフォーム姿のスタッフ達も浴衣や法被で皆様をおもてなし。綿あめやかき氷、ヨーヨー釣りの出店!?も登場し、お祭り気分もいっそう盛り上がります。セタの歌の合唱や、縦笛やフルート、ウクレレの演奏などもあり、夏の楽しいひとときを過ごしていただきました。入院中でも行事を通し、季節を感じていただけたら、スタッフ達のそんな想いがつまったセタ会でした。



## 第97回 ふれあいコンサート

7月4日当院のレストランホールにて第97回セタ・ふれあいコンサートが行われ、アイリッシュハーブの演奏や笠間女声コーラス華&院内サークルのコーラスをお聞きいただきました。アイリッシュハーブの美しい音色とコーラスの美しいハーモニーに包まれ、ゆったりと夏の宵をお楽しみいただきました。



## サマーコンサートが行われました!

7月25日に当院にてピアノ&ヴァイオリン演奏会が開催され、元Bradford college音大教授のDavid Mayersさんによるピアノと台湾新光病院医師の李主硯さんによるヴァイオリン演奏をお楽しみいただきました。皆さん、お二人の息の合った素晴らしい演奏に酔いしれ、盛大な拍手を贈ってられました。

## キッズくらぶインホスピタル'18を 開催しました

今年で12回目を迎えたキッズくらぶインホスピタル。今年も元気な小学生24名にお集まりいただきました。救急隊員が事故現場でどのように迅速に病院まで搬送するかを見学したり、AEDを使って心肺蘇生法を学んだり、管理栄養士の方のお話を聞きながら実際の病院食を検食しました。また診察体験、エコー体験、手術体験、注射体験ではすべて実際の医療現場で使われているものを使用。医療の現場をじかに触れて学べる貴重な体験の数々に、子ども達は目を輝かせ、楽しそうに取り組んでいました！



(左) 実行委員長 研修医 池田 佳織  
(右) 副実行委員長 研修医 木名瀬 聡香

### 運営に携わって…

今年も沢山の子供たちがキッズくらぶインホスピタルに参加してくれました。この企画を通して、病院で働いている人たちがどんなことをしているのか、少しでも伝えることができていたらいいと思います。イベントの最後に、「楽しかった人ー？」という問いかけに、子供たちが皆大きな声で「はい！」と手をあげて答えてくれた時、企画者として大変嬉しい気持ちになりました。

キッズくらぶインホスピタルを開催するにあたり、ご協力してくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。実行委員長 研修医 池田佳織

## 防災 訓練

7月12日に当院で防災訓練を実施しました。茨城県内を震源とした震度5強の地震が発生したことを想定し、患者さまの安全確保や火災防止、患者さまを安全に避難させるための搬送方法や避難経路を確認いたしました。この訓練を元に院内で情報を共有し、防災に努めて参りたいと思います。





かかりつけ医を  
持ちましょう

# 連携医療機関のご紹介

## \* かかりつけ医を持ちましょう \*

当院は高度医療の提供・急性期疾患への迅速な対応をする急性期病院の役割を担っています。急性期病院としての病院外来診療の役割は急性期の患者さまを診察することであり、症状が落ち着いたら地域の医院・クリニック等で継続治療していただくのが望ましいとしております。当院の医療を必要とする一人でも多くの急性期の患者さまのために、当院で治療を終えられた慢性期の患者さまには、安心して地域の診療所（医院・クリニック等）で診ていただけるよう、当院では医師会の指導のもと、診療所と連絡を取り合い連携を強化しております。

### 【かかりつけ医の役割】

かかりつけ医は、まず、患者さまの初期医療に当たります。病状によって高度な診療・検査等が必要と判断した場合には紹介状（診療情報提供書）を作成し、適切な医療機関での診療を案内します。

### かかりつけ医

通常の診療



### 県立中央病院

入院・高度医療機器による検査・専門医診療



紹介

逆紹介

## 菊地歯科医院

院長 菊地 長正

平成3年12月に開院して以来、地域に根ざした歯科医院をモットーに予防、治療にたずさわって参りました。現在は歯科医師1名、歯科衛生士1名、受付兼歯科助手1名で診療しております。訪問診療に対応し、小児には床矯正も対応出来ます。

また以前から地域歯科医師会の食文化研究会に席を置いて、「楽食」および「囃むかむ弁当」について研究し、歯科医学会の一般公演の場での発表を手伝ってまいりました。そしてこれから摂食・嚥下障害の知識を再構築し、少しでも良質な医療を提供出来ればと思っております。



■所在地：東茨城郡城里町石塚1195-1  
■電話：029-288-6140

■診療受付時間：午前9:30～13:00、午後14:30～18:30  
■休診日：木曜・日曜・祝祭日  
ただし、祭日のある週は木曜日診療



ここでは患者さまやご家族の日常的な治療や健康管理を考えてくれる、地域の身近で気軽に相談できるかかりつけ医である医療機関をご紹介します。

## 医療法人 誠順会 クリニック 健康の杜

理事長 細田弥太郎

2005年4月に旧細田外科内科（水戸市白梅）開院30周年を機に、現在の水戸市千波町に新築移転いたしました。名称も医療法人誠順会クリニック健康の杜として生まれ変わり、施設をはじめ各種医療機器の近代化と充実を図っております。当院では、内科・外科を中心とした総合診療と共に、リウマチ科、内視鏡外科、小児外科等専門特化した診療科がございます。また、小児から成人まで対象とした便秘外来、精密検査が可能な睡眠時無呼吸症候群外来を開設しております。茨城県立中央病院とは、地域医療連携室を通じ、緊密な連携を進め、患者様や地域の皆様に安心・信頼される医療機関を目指しております。



■所在地：水戸市千波町1250 ■電話：029-305-6655  
■診療科：内科・消化器内科・リウマチ科・外科・小児外科・内視鏡外科・  
大腸、肛門外科・整形外科・形成外科・リハビリテーション科

■診療受付時間：午前 8:30～12:30  
午後14:30～17:30  
■休診日：水曜・日曜・祝祭日

## にしぼり整形外科

院長 西堀 靖広

平成19年に開業して以来、12年目となる整形外科のクリニックです。患者さんの困っている症状についてよく聞いて、触診して痛い部位を探り当て、必要ならコンピューターレントゲン装置や超音波診断装置、骨密度測定装置などで検査を行い症状の原因を的確に診断し、適切な治療を行えるように努力しています。

痛みやしびれに対しては投薬や温熱療法などの治療法だけでなく、トリガーポイント注射や関節内注射などの専門的な技術が必要な治療法も積極的に行っています。擦り傷やヤケドに対しては湿潤療法を行っています。また、運動療法として加圧トレーニングも行っています。様々な治療法を組み合わせ、地域の方々がより快適な日常生活が行えるようにサポートしていきたいと思えます。

より詳しい検査や手術が必要な患者さんは、茨城県立中央病院様に御紹介させていただいておりますので、安心して当院を受診してください。よろしくお願いいたします。



■所在地：笠間市泉2077-3  
■電話：0299-37-6026

■診療受付時間：午前8:00～11:30、午後14:00～17:30  
日曜日（午前中）も診療いたします。※第3日曜日は休診  
■休診日：水曜午後・土曜・日曜午後・祝祭日

# 地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さまにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後とも宜しくお願いいたします。

## 各診療科のご紹介



### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

部長 たか はし 高橋 くに あき 邦明

当科は耳鼻咽喉領域や頭頸部領域の様々な病態、扁桃炎、中耳炎、めまいなどの急性疾患から、

嚥下障害や難聴といった機能障害、さらには口腔がんや甲状腺がんを含む頭頸部がんまで、高い質を維持しながら専門的に対応すべく、この20年余りの間、診療を継続しております。幸い、現在は3名の専門医と1名の専攻医をスタッフに加え、臨床研修医の教育にも充実した体制ができるようになりました。2名は頭頸部癌治療専門医、指導医の学会資格も有しており、頭頸部癌専門医研修施設にも認定されています。

当科の診療の柱としては、1)喉頭蓋炎や頸部膿瘍などの直ちに外科的処置が必要な急性救急疾患に迅速に対応すること 2)頭頸部癌（喉頭、咽頭、口腔、鼻副鼻腔、唾液腺、甲状腺領域）治療においては 早期例、進行例を問わず標準治療による根治治療を提供できる体制とし、進行がんの手術では他の外科系診療科の協力も得て術後機能障害を可能な限り抑えた再建を目指し、咽喉頭表在癌に対しては鏡視下手術を導入 3)鼻副鼻腔や咽喉頭の内視鏡下（鏡視下）手術の適応拡大、となります。

3年前から始めた「嚥下外来」では、脳血管疾患の後遺症やがん治療後の嚥下障害患者さんなどの嚥下機能評価依頼を受け、嚥下内視鏡検査(VE)を中心に評価を行い、その対策について摂食嚥下認定看護師や管理栄養士を含めた多職種で検討しています。また、入院治療中の頭頸部がん患者さんを対象にした「嚥下カンファ」を歯科口腔外科医や薬剤師の方々にも加わっていただき、この3月から開始しました。治療方針に沿った口腔機能管理や嚥下訓練、嚥下機能改善手術や誤嚥防止術の適応などについて、より深く検討する場を設けています。

喉頭摘出術後の音声プロテーゼ埋め込み（気管食道シャント術）と音声リハビリテーションについては、5年ほど前から上前泊が中心となり進めています。プロテーゼの改良や患者会の発足もあり、リハビリテーションも円滑に進むようになりました。

鼻副鼻腔の内視鏡下手術は98年の導入以来1,200例を超えますが、機器の更新も進み安全性第一に行い、今後はナビゲーション技術も導入し鏡視下手術として更に発展させたいと考えています。

診療科の枠にとらわれず、近隣のみならず鹿行、県北部の施設様からも多くご紹介をいただくようになり、感謝申し上げます。今後とも地域の皆様の期待に応えられるよう努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。



### —第14回— 「当院での医師育成について」

茨城県立中央病院  
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき  
病院長 吉川 裕之



当院では大学病院と同様に、医師免許取得後2年間の初期研修医、その後3～4年間の後期研修医(現在では専攻医と呼びます)を受け入れて、医師の育成に努めています。専攻医は専門医試験を受けて、合格することで基本領域19診療科の専門医(※1)となり、この基本領域の専門医を取得させるところまでが医師育成の基本となります。この後にさらに細分化されたサブスペシャリティ領域の専門医(※2)をめざす医師が多く、医師の研修は一生続くこととなります。

茨城県は人口当りの医師数が埼玉県に次いで2番目に少ない県です。地方医療の充実のため、医師確保の施策の一つとして最近では地域枠入試(※3)が筑波大学、他、東京医大などの6大学にも認められています。筑波大学だけでも地域枠入学者数は平成21年度～平成31年度までの11年間で229名に上り、すでに初期研修医、専攻医として、茨城県内の病院で活躍しつつ、専門医をめざして研修をしながら日々研鑽を重ねています。

当院の初期臨床研修は、救急および一般外来での対応能力と、診断・治療の立案から実践までの入院患者管理能力を育成することを目標にしています。上級医がベッドサイドでその都度指導する現場での研修を重視しており、当院採用の初期研修医(毎年11名程度)に加え筑波大学、東京大学等からの派遣を含む27名の初期研修医が現在研修中です。それに加え、卒後3

～5年目の専攻医24名と6年目以降の専攻医10名が在籍しています。

そして更なる研修の充実化のために今年1月に約2,000㎡の「研修棟」をオープンしました。こちらでは医療スキルトレーニング室を備え、腹腔鏡下手術の研修や人形を使った蘇生の訓練などができるようになっています。さらに、本年度中にはロボット手術のシミュレーション機器も設置予定となっており、初期研修医や専攻医に恵まれた研修環境を提供できるようになりましたことをうれしく思っています。このように当院が医師の育成に尽力していることを患者さまやご家族にもご理解いただき、ご協力いただきたくお願いを申し上げます。将来にわたって、茨城県民の皆さまがより健康で安心して暮らしていけるよう若き医師達が貢献してくれると確信しております。

(※1) 内科、外科、小児科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、整形外科、精神科、麻酔科、放射線科、救急科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、総合診療科、病理科、臨床検査科、リハビリテーション科

(※2) 基本領域での専門医の取得が要件。より専門性の高いサブスペシャリティ領域には消化器内科、循環器内科、消化器外科、循環器外科、婦人科腫瘍などの数十領域がある。

(※3) 医師不足を解消するために設けられた。卒後9年間は茨城県での勤務が義務づけられている。

## 病院ボランティアの方々が活躍中です！

当院では通院や入院中の患者さまが少しでも良い環境や状態のもとで治療が受けられるように、ボランティアの方々が院内のさまざまなところで活躍しています。患者さまの診療受付の案内や自動再来機や自動支払い機の使用法のお手伝い、車椅子利用者への介助、緩和ケア病棟で行われるイベントのお手伝いなど、内容は多岐にわたります。何かお困りの際はお気軽にお声かけください。



外来ホールの  
ボランティア。  
このエプロンは  
目印です

【フルーツミニコンサート開催案内】

●第1・3火曜日14:30～15:00(レストランホール) ●第2・4火曜日14:30～15:00(緩和ケア病棟)

## ボランティアを募集しています！

### ～募 集 内 容～

【活動日・時間】月曜日～金曜日 ただし祝祭日及び年末年始12/29～1/3を除く  
午前8時30分～11時30分、午後13時00分～15時00分

【主な内容】初診・再診患者さまの診療受付、自動再来機などの使用法の支援、受診手続きの説明や代筆、車いす利用者への介助、配茶サービス、季節の飾りつけ、環境整備、散歩やお買い物支援、イベントの参加や支援 など

【経 費 等】活動に要する費用は、交通費、ボランティア活動保険などを含め全額自己負担となります。報酬はございません。活動中のエプロン・ネームプレートは貸与いたします。

【募集要件】1. 18歳以上(高校生不可)

2. 当院のボランティア活動の趣旨にご理解、ご協力頂ける方

3. 原則、週1回、1日2時間以上の活動を6か月以上継続できる方

4. 体力に自信があり、2時間の立ち作業ができる方

5. ボランティア保険に自己負担で加入していただける方

6. 面接・ボランティア研修会に参加していただける方

※ボランティアとして活動をする前にオリエンテーションを受講していただきます。

※治療中の患者さまのご参加はご遠慮いただいております。

【申込方法】ボランティア活動を希望される方は、下記にお問合せください。

住所：〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 茨城県立中央病院 看護局ボランティア担当者

電話：0296-77-1121(代表) FAX：0296-77-2886

## 医師事務作業補助者(非常勤職員)の募集

●募集人員：5名程度

●雇用期間：採用から平成31年3月31日  
契約更新有り(条件有り)

●業務内容：医師が行う事務作業の補助をする業務です。電子カルテへの診察記録の代行入力、診察に関するデータの抽出、作成、各種保険の診断書や証明書などの作成代行、院内会議の会場準備及び資料・議事録の作成 など  
※業務上、公用車を運転していただく場合があります。

(要普通自動車免許(AT可))

●必要経験：医事業務の経験等があることが望ましいが、未経験者でも可能。パソコンスキル(エクセル・ワード)

●賃 金：時給1,133円、他に賞与有り  
(院内保育所利用可)

●勤務時間：原則9:00～16:00(週29時間勤務)  
※残業1時間程度あり

ご連絡先：事務局総務課(担当 黒澤)

☎0296-77-1121(内線2024)

## 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>